



一般社団法人
神奈川県大井の里体験観光協会

受託者

一般社団法人
神奈川県大井の里体験観光協会

神奈川県知事登録旅行サービス手配業第59号

〒258-0012 神奈川県足柄上郡大井町柳 248

TEL/FAX : 0465-43-6309

E-mail : office@taikenkankou.com

HP : http://taikenkankou.com

東京 I.C. から大井松田 I.C. まで東名高速で約 75分
品川から小田原まで東海道新幹線で約 25分

概要版

令和4年度 神奈川県委託

「県西地域における 広域ワーケーションモデル事業の企画・運営等業務」成果報告

かながわ西 働くと暮らすが変わる場所

ハタラケラス

神奈川県西地域（小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町および、湯河原町からなる2市8町）は、都心からのアクセスが良く、山あり海あり温泉ありで、地域活動や生活文化も豊富な地域です。神奈川県では、こうした魅力を生かした県西地域でのワーケーションを広めるため、令和4年度、地域との交流をコンテンツとして組み込んだ「広域ワーケーション」のモデルツアーを企画・実施しました。本紙では、令和4年度に実施した3つのモデルツアーの内容を中心に報告いたします。

モデル1

地方創生ワーケーション

モデル2

SDGSワーケーション

モデル3

Well-beingワーケーション

あしがら

箱根・小田原

湯河原・真鶴

神奈川県
西部

ワーケーション
Workcation

概要

1. 本事業の全体像

本事業の全体像として、(1) 県西地域における広域ワーケーションに関するニーズ調査および、県西地域における広域ワーケーションモデル事業へのプロモーション、(2) 体験交流プログラムの発掘・磨き上げによる県西地域における広域ワーケーションモデル事業3コースの造成、(3) 県西地域における広域ワーケーションモデル事業3コースの実証、と3段階に分けて事業を構成した。

また、関係人口の創出・拡大に向け、県西地域でのワーケーションのイメージづくりにつながるシンボルとなるものを検討した。都心からのアクセスが良好な地域である一方、自然や文化等に恵まれた過ごしやすい地域であり、「働く（仕事）」と「暮らす（生活）」が交わる場所であることを表現するため「ハタラクラス」というキャッチフレーズにてロゴを制作（図1）し、各種媒体等への掲載をした。



図1 県西地域での広域ワーケーションのシンボルとなるロゴ

2. ワケーション類型の整理

県西地域における広域ワーケーションモデル事業の企画に向けては、関係人口創出のためのモデルづくりを行うべく、ワーケーション類型の整理からはじめた。

まず、観光庁による「新たな旅のスタイル」では、実施形態をワーケーションとプレジャーに分けた上で、休

暇型と業務型に区別（図2）。ワーケーションの休暇型は「福利厚生型」、業務型は「地域課題解決型」「合宿型」「サテライトオフィス型」の3類型、プレジャーは業務型と整理している。

松下慶太は、日本型ワーケーションを『ワーカー休暇中に仕事をする、あるいは仕事を休暇的環境で行うことで取得できる休み方であり、働き方。また、仕事に効果があると考えられる活動を伴うこともある』と定義している。働く個人を主体として「文豪モデル」「趣味人モデル」「合宿モデル」「コミュニティモデル」と4類型に整理している。

一方、田中敦は、『従業員が本人の意思において雇主の承認のもとに、通常指定された勤務先や自宅外の場所でテレワーク等を活用して仕事と余暇を並行して行うこと』と定義している。その中で、『ワーケーションを「休暇活用型」「日常埋め込み型」の2類型に、ブリーチャーを「出張（非日常 work）+遊び型」、オフサイドミーティングを「企業内グループ型』と整理している。

他方、神奈川県政策研究センターでは「かながわの地域づくりとワーケーション」で、ワーケーションを『自宅及び所属オフィス以外で行うテレワークを活用しながら、ワークライフバランスを考慮しつつ、仕事と余暇を両立させる活動』と定義している。その中で、『ワーケーションを「缶詰型」「ツーリズム型」「組織研修・合宿型」「CSR・SDGs型」「コミュニティ型」と5類型に整理』。

観光庁の類型以外は、いずれも利用者（個人 / 従業員）を主体として類型化されたモデルの意味合いが強く、本事業の企画に向けては、送り手（企業）と利用者（個人 / 従業員）、受け手（地域や事業者）のメリットを考慮した類型となっている観光庁の示す「新たな旅のスタイル」のワーケーション実施形態（図2）に基づきター

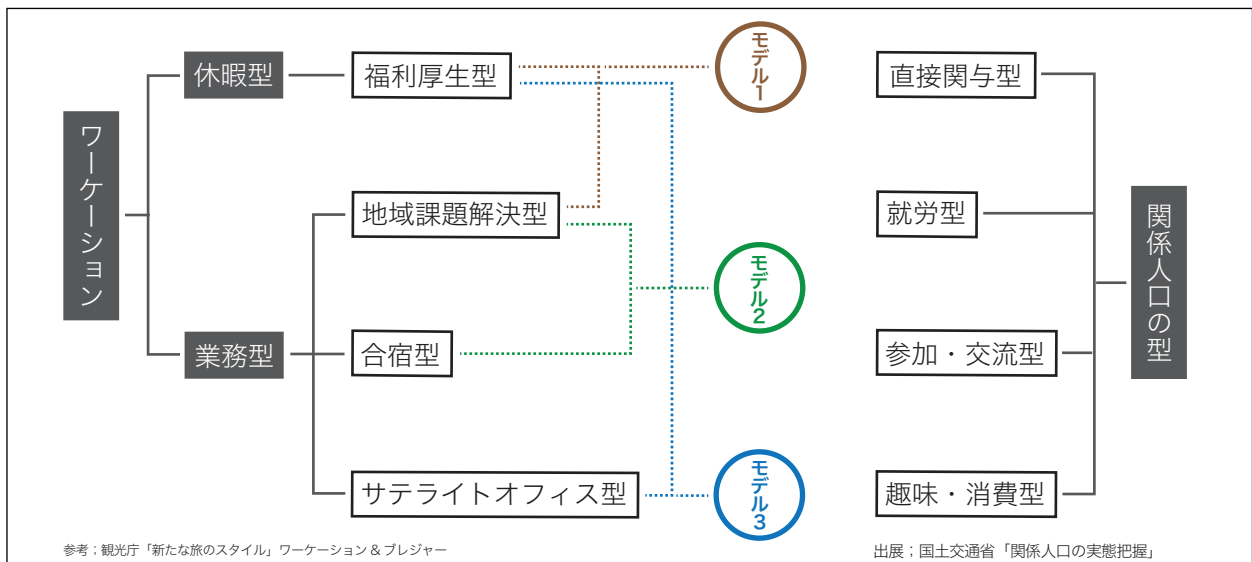


図2 モデル事業立案のためのターゲット選定、関係人口創出に向けた考え方の整理

ゲットを定め、モデル事業の企画を行った。

また、体験交流プログラムの発掘、磨き上げについては、国土交通省の示す「関係人口の実態把握」より関係人口の4つの型（図2）を参考に、県西の特性や課題を考慮した企画を行った。

以上より、「ワーケーションの実施形態」および、「関係人口の実態把握」を踏まえ、3パターンのモデル事業を企画し、運営・検証を行なった。

1 モデル

地方創生ワーケーション

観光庁が示すワーケーションの実施形態による「福利厚生型」と「地域課題解決型」の組み合わせによるターゲット選定、モデル事業の造成を行った。

地方創生につながるワーケーション事業として位置付け、送り手（企業）はビジネススキルの提供による新たなビジネスチャンスを生むきっかけにつなげることを、受け手（地域）は地域情報や課題提供による課題解決につながるようなマッチング機会の創出を目指すことをねらったワーケーションを実施した。

- 対象：新たなビジネス展開を地方に求めている企業1社をターゲットに、社員10名および、その家族を対象とした。
- エリア：箱根・小田原エリア

2 モデル

SDGsワーケーション

観光庁が示すワーケーション実施形態による「地域課題解決型」と「合宿型」の組み合わせによるターゲット選定、モデル事業の造成を行った。

SDGsを学ぶ越境学習および、ボランティア活動としてのワーケーション事業として位置づけた。人口減少や高齢化による竹林や農地の荒廃、農家の離農などの課題に対し、持続可能な社会/SDGsの実現に向けた新たな地域産業の取り組みを学ぶワーケーションである。また、企業のCSR活動として、ボランティア活動を通してチームビルディングにもつながる新たな知見の獲得を目指す。

- 対象：社会貢献の位置づけやSDGsの具体取り組みを求めている複数企業をターゲットに、社員10名を対象とした。
- エリア：あしがらエリア（南足柄市・大井町）

3 モデル

well-beingワーケーション

観光庁が示すワーケーション実施形態による「サテライトオフィス型」と「福利厚生型」の組み合わせによるターゲット選定、モデル事業の造成を行った。

新たなライフスタイルを見つけるワーケーション事業として位置づけた。真鶴町内に4ヶ所あるコワーキングスペースや自由に使える湯河原町の万葉公園玄関テラスでの仕事や、閑散期だからこそ魅力発見につながる体験交流プログラムを設定し、各自が過ごし方を自由にチョイスできるツアーとした。また、ツアー参加者同士が交流できるようオンライン交流会や現地での交流会を設け、個々人のwell-beingにつなげる。

- 対象：テレワークやフリーランスなど、自由度の高い働き方をしている方をターゲットに、10名を対象とした。
- エリア：湯河原・真鶴エリア

ニーズ調査

ニーズ調査に関しては、質問紙項目の設計並びに、分析について、文化学園大学安永明智教授に協力をお願いし、以下、調査を実施した。

1. 調査の目的

本アンケート調査は、人々の「広域ワーケーション」のニーズを把握することを目的に実施した。また、ニーズ調査自体が「広域ワーケーション」のプロモーションにつながると考えた。

2. 調査方法

1) 対象者

対象者は、当会ホームページ上で実施したモデルツアーの人気投票（今回提示した3つのモデルツアーの中でどれに参加したいか）に参加した100名の中で（投

票の結果は図3に示す)、アンケート調査に協力の意思を示した成人76名(男性30名(39.5%)、女性46名(60.5%))であった。参加者の年代は、20代2名(2.6%)、30代15名(19.7%)、40代18名(23.7%)、50代31名(40.8%)、60代9名(11.8%)、70代以上1名(1.3%)、婚姻状況は、「未婚(子供なし)」20名(26.3%)、「未婚(子供あり)」12名(15.8%)、「既婚(子供なし)」12名(15.8%)、「既婚(子供あり)」32名(42.1%)であった。

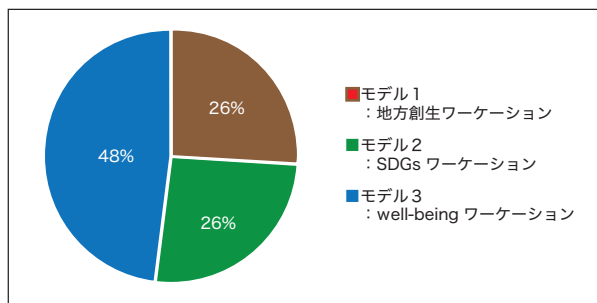


図3 今回提示した3つのモデルツアーの中でどれに参加したいか

2) 調査項目

調査項目は、①性別、②年代、③婚姻状況、④働き方のスタイル、⑤働いている企業の従業員数、⑥勤務地、⑦今回提示したツアーおよび、神奈川県西部に関して魅力を感じる点、⑧ワークショップを実施したい理由、⑨ワークショップに誰と行きたいか、であった。

3. 結果

1) 参加者の働き方のスタイル、働いている企業の従業員数、勤務地

参加者の働き方のスタイルは、76名中25名(32.9%)が「勤務日はほぼオフィス勤務」、13名(17.1%)が「勤務日はほぼ在宅勤務」、18名(23.7%)が「在宅勤務とオフィス勤務の両方(在宅勤務の割合が多い)」、10名(13.2%)が「在宅勤務とオフィス勤務の両方(オフィス勤務の割合が多い)」、10名(13.2%)が「その他」、参加者が働いている企業の従業員規模は、76名中25名(32.9%)が「1001人以上」、16名(21.1%)が「10人以下」、10名(13.2%)が「301人から1000人」、9名(11.8%)が「51人から100人」、6名(7.9%)が

「101人から300人」、5名(6.6%)が「11人から50人」、分からない5名(6.6%)であった。勤務地は、東京都41名(53.9%)、神奈川県31名(40.8%)、千葉1名(1.3%)、埼玉1名(1.3%)、栃木1名(1.3%)、その他(勤務地は決まっていない)1名(1.3%)であった。

2) 今回、提示したツアーおよび、神奈川県西部のどのような点に魅力を感じるか(複数回答可)

対象者(76名)が魅力として挙げた上位5項目は、「地元の食材・グルメを堪能できそう」55名(72.4%)、「普段とは異なる環境・体験から新たな知見を得られそう」42名(55.3%)、「地域の人との交流する機会を得られそう」41名(53.9%)、「都心から電車でのアクセスが良い」40名(52.6%)、「温泉地である」32名(42.1%)、「参加した人との交流する機会を得られそう」32名(42.1%)であった。

男女別の集計の結果(表1)、女性では、「地元の食材・グルメを堪能できそう」35名(76.1%)、「普段とは異なる環境・体験から新たな知見を得られそう」32名(69.6%)、「地域の人と交流する機会を得られそう」27名(58.7%)、男性では、「地元の食材・グルメを堪能できそう」20名(66.7%)、「都心から電車でのアクセスが良い」18名(60.0%)、「地域の人と交流する機会を得られそう」14名(46.7%)、「参加した人との交流する機会を得られそう」14名(46.7%)がそれぞれ上位を占めていた。

※(%)は、全体(76名)、女性(46名)、男性(30名)に対する選択者の割合

3) ワorkshopを実施したい理由(複数回答可)

対象者が理由として挙げた上位5項目は、「リフレッシュ効果が得られそうだから」60名(78.9%)、「地域関係者との交流する機会が増えそうだから」33名(43.4%)、「テレワークができる職場や業務内容だから」26名(34.2%)、「働く場所にこだわらなくてすむようになったから」26名(34.2%)、「働き方改革(ワークライフバランスを含む)が推進できそうだから」24名(31.6%)であった。

男女別の集計の結果(表2)、女性では、「リフレッシュ効果が得られそうだから」38名(82.6%)、「地域関係者との交流する機会が増えそうだから」19名(41.3%)、「働く場所にこだわらなくてすむようになったから」17名

表1 今回、提示したツアー及び神奈川県西部のどのような点に魅力を感じるか(男女別)(複数回答可)

	女性 / 46名	男性 / 30名
都心から「電車」でのアクセスが良い	22名(47.8%)	18名(60.6%)
都心から「車」でのアクセスが良い	9名(19.6%)	12名(40.0%)
地元の食材・グルメを堪能できそう	35名(76.1%)	20名(66.7%)
地域の人と交流する機会を得られそう	27名(58.7%)	14名(46.7%)
参加した人との交流する機会を得られそう	18名(39.1%)	14名(45.7%)
地域とのビジネスマッチングにつながりそう	5名(10.9%)	9名(30.0%)
社会貢献/地域課題解決につながりそう	18名(39.1%)	9名(30.0%)
普段とは異なる環境・体験から新たな知見を得られそう	32名(69.6%)	10名(33.3%)
滞在地域のイメージが良い	9名(19.6%)	10名(33.3%)
観光地である	12名(26.1%)	5名(16.7%)
温泉地である	22名(47.8%)	10名(33.3%)

表2 ワークーションを実施したい理由（男女別）（複数回答可）

	女性 / 46名	男性 / 30名
リフレッシュ効果が得られそうだから	38名 (82.6%)	22名 (73.3%)
働き方改革（ワークライフバランス含む）が推進できそうだから	17名 (37.0%)	7名 (23.3%)
働く場所にこだわらなくてすむようになったから	18名 (39.1%)	8名 (26.7%)
テレワークができる職場や業務内容だから	14名 (30.4%)	12名 (40.0%)
混雑時期を避けて旅行が出来そうだから	16名 (34.8%)	5名 (16.7%)
休暇、有給取得がしやすくなりそうだから	4名 (8.7%)	1名 (3.3%)
勤め先がワークーションを導入・促進しているから	2名 (4.3%)	3名 (10.0%)
家族や知人・友人が実施しているから	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
交通費の経費利用など費用面でのメリットがありそうだから	4名 (8.7%)	1名 (3.3%)
家族等の同行者とのスケジュールが合わせやすくなるから	1名 (2.2%)	1名 (3.3%)
既にプライベートの旅行中に仕事をしているから	8名 (17.4%)	5名 (16.7%)
仕事の質・業務効率が上がりそうだから	5名 (10.9%)	6名 (20.0%)
地域関係者との交流する機会が増えそうだから	19名 (41.3%)	14名 (46.7%)
スキルアップになりそうだから	11名 (23.9%)	6名 (20.0%)
職場の関係性が向上しそうだから	1名 (2.2%)	2名 (6.7%)

(37.0%)、男性では、「リフレッシュ効果が得られそうだから」22名 (73.3%)、「地域関係者との交流する機会が増えそうだから」14名 (46.7%)、「テレワークができる職場や業務内容だから」12名 (40.0%) が、それぞれ上位を占めていた。

※(%)は、全体 (76名)、女性 (46名)、男性 (30名) に対する選択者の割合

4) ワークーションに誰と一緒にいきたいか

「ワークーションに誰と一緒にいきたいか」は、76人中38人 (50.0%) が「1人」、21人 (27.6%) が「家族や恋人」、10人 (13.2%) が「異業種の友人や知り合い」、3人 (3.9%) が「会社の同僚(少人数)」、2人 (2.6%) が「同業種の友人や知り合い」、2人 (2.6%) が「その他」と回答した。

4. まとめ

「今回提示した3つのモデル事業の中でどれに参加したいか」に関しては、「モデル3：well-being ワークーション」が約半数と最も多かった。「今回、提示したモデル事業および、神奈川県西部のどのような点に魅力を感じるか」については、バケーション部分に関しては、多くの人が「地元の食材・グルメを堪能できそう」「温泉地である」といった点に、またワーク（仕事）部分に関しては、「普段とは異なる環境・体験から新たな知見を得られそう」「地域の人との交流する機会を得られそう」といった点に、それぞれ魅力を感じていた。美味しい食べ物があること、温泉があることは、神奈川県西部の強みであると考えられる。また、「都心から電車でのアクセスが良い」を魅力として挙げた人も半数以上 (53%) いた。この割合は、「都心から「車」でのアクセスが良い」を魅力として挙げた人 (28%) と比べると25% 高く、「電車でのアクセスの良さ」はこの地域の大きな強みとなっていることが伺える。

「ワークーションを実施したい理由」に関しては、約8割の人が「リフレッシュ効果が得られそうだから」を

挙げていた。また、「テレワークができる職場や業務内容だから」「働く場所にこだわらなくてすむようになったから」といったワークーションに適した働き方のスタイルを実施したい理由として挙げた人も多くいた。加えて、「地域関係者との交流する機会が増えそうだから」もワークーションを実施したい理由として多くの人が挙げていた。

結果から考察すると、「地元の食材・グルメを堪能できそう」「温泉地である」が神奈川県西部の強みと挙げられているが、バケーションとしての魅力でもあり、同様の強みを持つエリアは他にも存在するためワークーションとしてのキラーコンテンツにはなりにくいと考えられる。

一方、「電車でのアクセスの良さ」についてはある程度、注視しても良さそうである。そんな中、ワーク（仕事）としての魅力に挙げられている「地域の人との交流する機会を得られそう」と、ワークーションを実施したい理由に挙げられた「地域関係者との交流する機会が増えそうだから」という回答に注目したい。神奈川県西部は、いわゆる『ちょうど良い田舎』が存在するエリアである。都心部からのアクセスが良い一方で、都心部とは違う「文化」「生活」がある。すなわち、身近に『異文化交流体験』ができることが強みになる可能性が示唆できる。アクセスの良さを謳いつつ、異文化交流体験につながるような「普段とは異なる環境・体験から新たな知見の獲得」の機会や、「地域の人との交流する機会」を提供することで「リフレッシュ効果」を生み出すようなワークーションの可能性にニーズがありそうだ。



安永 明智 (やすなが あきとも)

文化学園大学国際文化学部・教授
九州大学大学院人間環境学研究所博士
後期課程修了 (博士・人間環境学)
専門は健康心理学
日本健康支援学会・評議員
主な著書:「健康心理学・シリーズ健康心理学と仕事12」
(分担執筆) 北大路書房

1 モデル

地方創生ワーケーション

観光庁が示すワーケーションの実施形態による「福利厚生型」と「地域課題解決型」の組み合わせによるターゲット選定、モデル事業の造成を行った。

地方創生につながるワーケーション事業として位置付け、送り手（企業）はビジネススキルの提供による新たなビジネスチャンスを生むきっかけにつながることを、受け手（地域）は地域情報や課題提供による課題解決につながるようなマッチング機会の創出を目指すことをねらったワーケーションを実施した。

- 日程：2022年11月11日（金）～13日（日）の2泊3日にて実施
- 参加者：新たなビジネス展開を地方に求めている企業をターゲットに、2社から8名の参加
- エリア：箱根・小田原エリア
- 協力：株式会社小田原ツーリズム・農業生産法人小田原柑橘クラブ
大井町体験活動指導者/NEALプログラム委員会（自然体験活動指導者）

箱根・小田原

1日目（11/11.金）

初日が平日ということもあり、金曜日の夕方に現地集合とした。会場は箱根湯本にある1棟貸切が可能なゲストヴィラ箱根湯本とした。また、施設に温泉がなかったため、集合時間を早めて提携している温泉への入浴時間確保も可能であったが、2社とも夕方の集合を希望されたため、せっかくの機会ではあったが温泉は断念することになった。

湯河原・真鶴

皆が集合後（一部、遅刻での参加）、挨拶、オリエンテーションに続き、<session1>では、地元の荒れた畑を片浦レモンとしての流通を確立したり、荒れ果てた地を切り拓きワイン用のブドウ畑に変えながら、多くの人を巻き込んできた農業生産法人小田原柑橘倶楽部の鈴木氏を招いて、地域の実情や課題、取り組みなどをふまえたプレゼンテーションを実施、情報収集の時間となった。引き続き、同会場にて交流会を実施。残念ながら鈴木氏は参加できなかったが、紹介のあった小田原柑橘倶楽部の商品『小田原レモンチューハイ』をいただきながら2社の交流、親睦が深まっていた。時間を気にせず、会場も移動することなく session や交流会、宿泊が可能な形態での実施が良かったと考えられる。



本来であれば土日を利用し、社員の家族と合流して福利厚生としての社員家族旅行という位置づけであったが叶わなかった。現地に到着すると、辺りを一望できる場所へ移動し全体像を把握した後、開墾したブドウ畑（ちょうど、更なる開墾も行ってた）を見学、ワインになるまでの道のりや人の巻き込み方、管理作業の方法など詳しく、現場を見ながらの解説を伺った。その後は、隣にあるキウイ畑にて農家の話を聞きながら収穫体験をさせていただいた。また、熟して落ちているキウイの試食もさせていただき、多くのキウイが外国産である中、国産キウイのおいしさに舌鼓を打った。

その後は、山を降りながら荒廃している竹藪やツルまみれになった畑、荒れたレモン畑でのレモン収穫体験、オリーブ農園として開墾した場所などを見学しつつ、海を眺めながらの下山となった。道中の風景はなんと美しく、各者この風景をなんとかしたいという思いに駆られているようであった。下山後は、海鮮定食をいただき束の間の観光タイム。ここは海辺の小田原市だということをおいさせてくれるかのような新鮮な魚を堪能することができた。

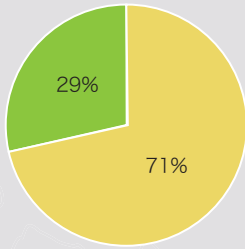
午後は離れの宿「星ヶ山」へ移動し、収穫した農作物の加工体験。山の中のログハウスで束の間の休息後、体験プログラムのレクチャーを行った。収穫されない農作



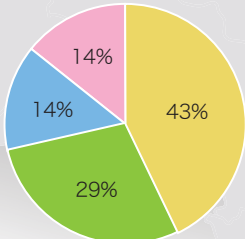
2日目（11/12.土）

<session2>、翌日は貸切バスにて小田原柑橘倶楽部の農園や高齢化等による耕作放棄地などの視察に出かけた。

■ 参加者の属性 (性・年代)



● 男性 ● 女性



● 20代 ● 30代
● 40代 ● 60代

■ 参加者募集チラシ/ツアー行程



物や出荷しても商品価値の少ない農作物など、農家の大変な作業をお手伝いする体験とその収穫物を加工することで多くの人に来てもらう体験観光として当会が実施しているスキームに沿ってプログラムを造成させていただいた。キウイとレモンのグミづくり体験、絞ったレモンの皮を使ったピールづくり体験、キウイのジャムづくり体験、レモンスカッシュづくり体験と4つの体験プログラムを実施。形が歪で不揃いで、傷がついていて商品価値が少なくとも、体験化させることで価値を高められることを実感していただいた。

このように、1日を通して家族連れでも楽しめる体験交流プログラム(家族での参加はなかったが)とし、現



状の把握など情報収集から活用事例の見学にはじまり、一事例として収穫物を有効活用する体験観光として集客を行っている当会のノウハウを活用したプログラムを楽しんでもらった。

これらの情報や体験をもとにインプットを終了し、翌日の<session3>ではアウトプットとして、各企業の企画を構想いただくため、夜の交流時間を活用したアイデア出しなどをお願いして解散となった。その後は、宿の地元食材を使った豪華なお料理とお酒を堪能する時間となった。また、2社の交流も進み、この日も夜が更けるまでの情報交換、アイデア会議を行ったようである。

3日目(11/13日)

家族やお子様連れの参加があれば、この日は別行動として小田原観光や小田原でのオプションツアー(寄木細工コースターづくり|1,500円/人|60分/小田原の風景ちようちんづくり体験|2,420円/人|90分)を用意していた。

一方、<session3>では企業ごとに企画を練っていたが時間とした。これまでのインプットした情報や各企業のビジネススキルやノウハウ、ネットワークなどを活用して、地域課題解決につながる斬新なアイデアを創出するためコンセプト会議を行った。みな真剣な様子である。提案を心躍らせながら待った。最終日も小田原柑橘倶楽部の鈴木氏にお越しいただき、鈴木氏に対して新たなビジネスを提案するという設定でプレゼンテーションを行った。

1社目からは3提案あり、農業と仕事が両立できるサテライトオフィスの構築案、体験観光プログラムとして足踏みワインづくり体験を造成案、ワイン畑でのウェディング開催案である。2社目は、情報を一元化することで情報不足を解消するwebサイトの構築案である。短い時間ではあったが、2社ともに素晴らしいご提案をいただいた。今後、実現に向け更なるブラッシュアップをしつつ、小田原柑橘倶楽部への具体提案を進め、同社の伴走を頂きながら実現に繋げていきたいという締めくくりで全行程を終了し、小田原駅へ移動後解散した。



2 モデル

SDGs ワークーション

観光庁が示すワークーション実施形態による「地域課題解決型」と「合宿型」の組み合わせによるターゲット選定、モデル事業の造成を行った。

SDGs を学ぶ越境学習および、ボランティア活動としてのワークーション事業として位置づけた。人口減少や高齢化による竹林や農地の荒廃、農家の離農などの課題に対し、持続可能な社会 /SDGs の実現に向けた新たな地域産業の取り組みを学ぶワークーションである。また、企業の CSR 活動として、ボランティア活動を通してチームビルディングにもつながる新たな知見の獲得を目指す。

- 日程：2023年2月18日（土）～20日（月）の2泊3日にて実施
- 参加者：社会貢献の位置づけやSDGsの具体取り組みを求めている複数企業をターゲットに、4社から6名の参加
- エリア：あしがらエリア（南足柄市・大井町）
- 協力：株式会社小田原ツーリズム・大井町地域振興課
大井町体験活動指導者 / NEAL プログラム委員会（自然体験活動指導者）

箱根・小田原

1日目 (2/18.土)

遠方からの参加なども考慮し、13時に伊豆箱根鉄道大雄山線の大雄山駅に隣接する「ホテルとぞんコンフォート」のロビーに集合、受付とした。荷物を置き、タクシーを乗り合せて大雄山最乗寺へと向かった。

最乗寺の部屋をお借りしていよいよ開会を迎える。本事業の趣旨説明にはじまり、オリエンテーションを行った。<session1>では、越境学習を通じた知の探究に向け、お互いの理解、自身との対峙を中心としたアイスブレイク、チーム形成、グループワークを実施。最初は緊張の面持ちであった参加者も徐々に解きほぐれていき、初日、良いチームビルディングができた。その後は、説法と座禅体験。チームメンバーとの出会いを終え、自身との対峙時間である。体験会場へ移動すると、そこは坐禅堂の形になっているが、作法や型式、姿勢、呼吸などは気にせず、まず座ってみることから座禅に入った。座禅は誰でもできるとのこと。時間は1炷香（いっちょこう）、すなわち線香が燃え尽きる時間でおおよそ40-45分間であるが、今回は導入という位置づけで30分程度の体験とした。ただ、ひとつだけ守ることがある。座禅は目を瞑ってはいけない、絶対眠たくなる。仕事をするのに目を瞑る人がいないように、座禅も仕事である。これは瞑想するものではないということである。曹洞宗の坐禅は、只管打坐（しかんたざ）と言い、ただ座るだけである。しかし、ただ座るだけほど難しいものはない。なかなか無心にも、無我にもなれない。ひとつの教えとして習ったこととして、何か情報が入ってきた時、それを掴んでしまうと考えるので「持たず、掴まず、腰掛けず」と言うのを意識してみてほしいとのこと。もうひとつ、数息観（すうそくかん：「ひとつ、ふたつ…と数えていき、じゅうまで数えたら、また戻って呼吸をすること」）を行いながらチャレンジした。途中、警策（きょうさく）を入れてもらい、坐禅堂にバチンッ！という音が響き渡った。何を待たわけでもない、何か考えたわけでもない、しかし、一気に気持ち整理できるような何か良い時が過



せたように思えた。座禅体験後、最乗寺を後にしてホテルへと移動した。初日は自由夕食としていたが、参加者皆で過ごし、さらなる交流を深めた。

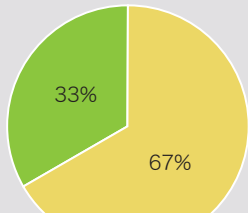
2日目 (2/19.日)

<session2>、新たな価値観の獲得とSDGsの具体事例を体験いただくこと、試行錯誤しながら協働的に物事を進めるという3点を軸としたプログラムで構成した。残念ながら当日は強風と雨でスケジュール変更が余儀なくされ、雨プログラムを実施した。

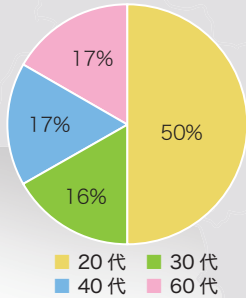
まず、里山ガイド①では、里山管理の必要性を理解してもらうため湧水、水源地の散策に出かけた。森と水の関係や水と暮らしの関係などから、この地で縄文弥生時代から暮らしが営まれていたことをガイドしながら年間通じて水温が一定の湧水に触れていただいた。里山ガイド②では、何か心に染み渡る美しい風景を見ていただく、人が管理し代々祀られてきた樹齢数百年のシノキのたもとにある祠のある里の風景を見に移動した。道中、人の手が入り管理された「竹林」と、管理できなくなった「竹藪」を対比しながら持続可能とは何かを考えるきっかけとした。本来であればこの後、荒れた竹藪に入り、竹林整備体験を実施する予定であったが、強風と雨のため安全第一を考えて断念し、当会が体験観光事業として実施している管理された竹林と竹藪の見学などを行い、午後の会場である大井町農業体験施設「四季の里」へ移動し、昼食とした。

午後からは伐採した竹でつくった竹炭を使った循環型

■ 参加者の属性 (性・年代)



■ 参加者募集チラシ/ツアー行程



■ 参加者募集チラシ/ツアー行程

のプログラムとして、竹炭石けんづくり体験を行った。ただ伐採するだけではなく、循環の中でどう活かしていくのかという発想の元、当会が実施している体験観光を体験いただいた。途中、出荷・収穫されない小粒な湘南ゴールドのジュース絞り体験も行った。本来であれば廃棄されるものを活用し、価値を生み出すという当会のプログラム体験である。

<session3>では、当会の実施したSDGsプログラムの意図開きを行った。団体の設立経緯やMission Statement/ミッション、ビジョン、バリューについての解説、事業の位置づけなどを紐解き、当会がどのように社会との関わりを生み出しているのかを解説、越境学習に結びつけることとなった。

以上でインプット時間は終了である。これからは、これまで整理した思いや交流から得た知見、葛藤なども踏まえたアウトプットの時間である。試行錯誤しながら目的を定め、グループで協力的に物事を進めていただく時間になる。与えられた課題は当会で実施している体験プログラム「竹筒ごはん炊飯体験（伐採後の竹の活用プログラム）」を活用したコンテストを実施するというもの。テーマは「里山の味覚をSDGsの観点でどのように届けるか」である。グループでテーマをどのように整理、理解するのか。そして、それをどのようなストーリーとして組み立てて、メッセージを盛り込んだ企画を立案してもらった。グループごとに簡単な企画書に整理していただき、地場産のものや小田原で揚がった鮮魚なども多い地元スーパーへ買い出しに出掛けた。各自のお土産購入の時間にもなった。

その後、地域の方や行政の方などを交えての交流会を実施した。当会を支えてくれる方々の生の声を聞く良い機会となった。

3日目 (2/20. 月)

最終日、<session4>はグループで企画した「竹筒ごはん」の炊飯体験である。道具づくりや炊飯方法などは指導しつつ、どのような味覚を提供するのかは各グループ

が検討した食材などで演出してもらった。普段はあまり使わないノギリやノミなどを使い、炭火を熾して、竹でごはんの炊飯に挑戦した。

3日目になるとこれまでのグループワークの成果も現れ、チームビルディングができてきている。それぞれが、それぞれの役割を果たし、グループの定めた共通目標に向かって物事が進んでいく。企業や役職、年齢などは関係ない。各グループ、思いを込めたメッセージある里山の味覚を届けてくれた。1グループの提案は、都市部の方々へ向け、地産地消を魅力として旅への誘いをメッセージとした。2グループは、空想の未来の人を対象として、次の2000年の世界をメッセージとした思いを込めた。

締めくくりは講評である。味もさることながら、どれ



も素晴らしいプレゼンテーションであり、メッセージであった。食べることはもちろん、その過程や課題に向き合う姿勢が大切である。漠然とする中で、自ら設定した小さな目標と、それに向かった過程、そして小さな成功体験を得ること、その中での葛藤を乗り越えてこそ越境学習なのである。それが、チームビルディングにもつながっている。

最後<session5>では、大雄山駅に隣接されたコワーキングスペース「ヴェルミ」へ移動し、リフレクションを実施。新たな知見の獲得につながったことが確認できる時間となった。終了後は、ヴェルミで仕事をする人、最乗寺へ観光に行く人、さまざまであった。

3 モデル

well-being ワークーション

観光庁が示すワークーション実施形態による「サテライトオフィス型」と「福利厚生型」の組み合わせによるターゲット選定、モデル事業の造成を行った。

新たなライフスタイルを見つけるワークーション事業として位置付けた。真鶴町内に4ヶ所あるコワーキングスペースや自由に使える湯河原町の万葉公園玄関テラスでの仕事や、閑散期だからこそ魅力発見につながる体験交流プログラムを設定し、各自が過ごし方を自由にチョイスできるツアーとした。また、ツアー参加者同士が交流できるようオンライン交流会や現地での交流会を設け、個々の well-being につなげる。

- 日 程：2023年1月17日（火）20:00-21:00 にてオンライン交流会の実施
2023年1月25日（水）～27日（金）の2泊3日にて実施
- 参加者：テレワークやフリーランスなど、自由度の高い働き方をしている方をターゲットに、7名の参加
- エリア：湯河原・真鶴エリア
- 運 営：株式会社ヤブタ建設不動産旅行部・一般社団法人真鶴町観光協会
- 協 力：真鶴出版・一般社団法人真鶴未来塾・一般社団法人地域間交流支援機構
箱根・小田原

事前オンライン交流会（1/17.火）

モデル事業3のようなスタイルのワークーションは、個人参加が多く、個々の過ごす場所・時間が異なることを想定していた。現地との交流を生み出すことが、より関係人口の創出につながると想定し、同じツアーへ参加者する方同士の交流を促進することを考えた。そのことが、より地域に深く入り込むことができるのではないかという思いである。また、知り合った仲間との再訪する機会につなげるべく、事前にオンラインで参加者同士の交流を図る機会を設定した。



オンライン交流会は、参加しやすい時間帯として、終業後の20～21時の1時間で設定した。趣旨説明やツアー内容説明以外、真鶴町と湯河原町について写真を交えてのオンラインツアー形式で実施。最後に、参加者の自己紹介として、①氏名、②参加動機、③ツアーの8つのポイントのうちどれに惹かれたかについてそれぞれ紹介があった。事前にどんな方が、どんな思いで参加されるのかを知っておくことで、当日を迎えるにあたっての意識づけにつながればと考えた。また、質疑の時間では、気になっていること、疑問解消をする場となった。8名の参加ではあったが1名オンライン交流会後にキャンセルがあった一方、迷っていたがオンライン交流会に出て参加を決めたというような声も聞けた。一長一短ではあるが、より主催者の意図した人に参加いただくという点ではオンライン交流会がうまく機能していたことが分かる。

1日目（1/25.水）

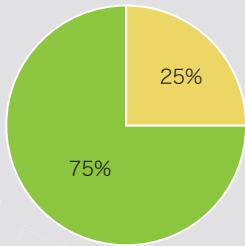
集合場所をコミュニティ真鶴とし、各自、真鶴駅でレンタサイクルをした後、集合してもらうこととした。そ



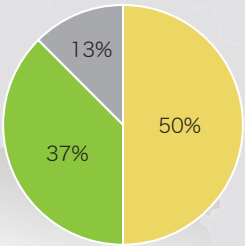
のため、真鶴駅にて一旦、仮受付・誘導を行った。コミュニティ真鶴に皆が集合後、改めてオリエンテーションと3日間の過ごし方（イベント参加・ワークーション体験について）を紹介するとともに、各イベントパスの配布を行った。その後、まずは全員を対象として、真鶴町のまち歩きツアーを実施。車では入れないような細い道や地元の方しか知らないようなお店やまちづくりの話、移住者の新しい商いなどについても紹介してもらった。再び、コミュニティ真鶴に戻ってきてからは、各自がそれぞれの真鶴時間・湯河原時間を堪能すべく散っていった。と、思えば、事前のオンライン交流会にて紹介のあった



■ 参加者の属性 (性・年代)



■ 男性 ■ 女性



■ 30代 ■ 40代 ■ 不明

■ 参加者募集チラシ/ツアー行程

8つのポイント!

- オンライン交流会 旅行前に開催
- マナヅルで 参加者交流会
- マナヅルを知る まち歩き体験ツアー
- マナヅルを知る 体験プログラム
- 期間中利用可 レンダサイクル
- マナヅルを知る 体験プログラム

日数	月日	曜日	集合	行程
1	1/25(水)	朝	09:30-10:15	真鶴駅前集合の後に各自、レンタサイクルの受け取り後、集合場所へ移動
		夕	10:15-10:30 10:30-12:00 12:30	①三ツ石海岸、②朝のお林ウォーキング、③森林セラピー、④「体験プログラム」
2	1/26(木)	朝	09:30-10:15	①各イベント参加、②ワーケーション体験/午前～午後
		夕	15:00-20:00	③「体験プログラム」
3	1/27(金)	朝	09:30-10:15	①各イベント参加、②ワーケーション体験/午前～午後
		夕	13:30-15:00	③「体験プログラム」

ランチのお店に集合しているグループなども見受けられ、3日間のツアーがはじまった。

過ごし方は個々自由ではあるが、ゆるいつながりや、出会いを生むため、現地でLINE グループを提案し、各々の発見や過ごし方、お誘いなどが双方向にできるような工夫も行った。なお、宿は真鶴町内を半島エリア/しょうとく丸、真鶴港エリア/入船旅館、岩エリア/民宿大和屋の3地区に分け、それぞれ数名ずつの分泊とした。

2日目 (1/26.木)

基本的に終日自由行動であるが、過ごし方を自由にチョイスして、自分なりの過ごし方で真鶴町・湯河原町を堪能いただくための体験交流プログラムを用意した。平日3日間のワーケーションであるため、真鶴町内に4ヶ所ある「コワーキングスペース」のフリーパスを利用した仕事時間の確保と、日中の仕事時間に邪魔にならないように、マナヅルを知る「選べる！朝活体験」として、①三ツ石海岸からの日の出鑑賞、②朝のお林ウォーキング、③森林セラピーと、「体験プログラム」として干物づくり体験、期間中利用できる「日帰り温泉チケット」の配布を行った。



3日間の過ごし方は自由であるため、プログラムに参加しても、しなくても構わない。また、湯河原観光や、真鶴町内のお店散策やグルメ旅など、各々の過ごし方をした人もいたようである。なお、期間中の移動には電動自転車の貸し出しを行なった。



3日目 (1/27.金)

最終日も昼過ぎまでは基本的に過ごし方は自由である。2日目に参加できなかったプログラムに参加する人、町中を散歩する人、すべてのコワーキングスペースを巡回する人など、さまざまであった。SNS グループへのランチ投稿などもあり、魅力満載で3日間では足りなかった様子であった。昼食後、コミュニティ真鶴に集合し、リフレクションとなった。個々の過ごし方や体験した感想、気づきをシェアして終了となった。参加者のうち数名は、解散後も湯河原へ移動したり、夜までバルで過ごしたりと、思う存分満喫していたようである。

事業評価

事業評価に関しては、質問紙・インタビュー項目の設計並びに、分析について、文化学園大学安永明智教授（前出）に協力をお願いし、以下、調査を実施した。

1. 調査の目的

本調査は、今回提案した3つのワーケーションモデルツアーの事業評価を目的に実施した。

2. 調査方法

1) 対象者

本調査の対象者は、3つのモデルツアーに参加した成人21名（男性11名（52.4%）、女性10名（47.6%）；モデル①8名（38.1%）（女性2名）、モデル②6名（28.6%）（女性2名）、モデル③7名（33.3%）（女性6名））であった。参加者の年代は、20代3名（14.3%）、30代11名（52.4%）、40代4名（19.0%）、50代1名（4.8%）、60代2名（9.5%）、参加者の婚姻状況は、「未婚（子供なし）」10名（47.6%）、「既婚（子供なし）」8名（38.1%）、「既婚（子供あり）」3名（14.3%）であった。

2) 調査概要と質問項目

参加者には、モデルツアーの事業評価を目的に、質問紙調査（モデルツアー参加前と最終日）とグループインタビュー（モデルツアー最終日）を実施した。

質問紙調査における事前調査の質問項目は、①性別、②年代、③婚姻状況、④働き方のスタイル、⑤働いている企業の従業員数、⑥勤務地、⑦今回提示したツアーおよび、神奈川県西部地域の魅力を感じる点、⑧ワーケーションを実施したい理由、⑨ワーケーションに誰と行きたいか、事後調査の質問項目は、①今回のワーケーションを知ったきっかけ、②今回のワーケーションの価格、③今回のワーケーションの日数、④今回のワーケーションの実施時期、⑤ワーケーション全体の満足度、⑥ワーケーション参加後の神奈川県西部地域（モデル1：小田原市・箱根町、モデル2：南足柄市・大井町、モデル3：真鶴町・湯河原町）に対する印象の変化、⑦ワーケーション参加後のワーケーションに対する印象の変化、⑧ワーケーションに参加して得られたことや感じたこと、⑨ワーケーションを実施する上で必要と考えるもの、⑩今回のワーケーションで満足できた点であった。

グループインタビューでは、3つモデルツアーに共通して、モデルツアーの感想（良かった・満足できた点、不満足だった点）や関係人口創出に関する質問を行った。

3. 事前調査の結果

1) 参加者の働き方のスタイル、働いている企業の従業員数、勤務地

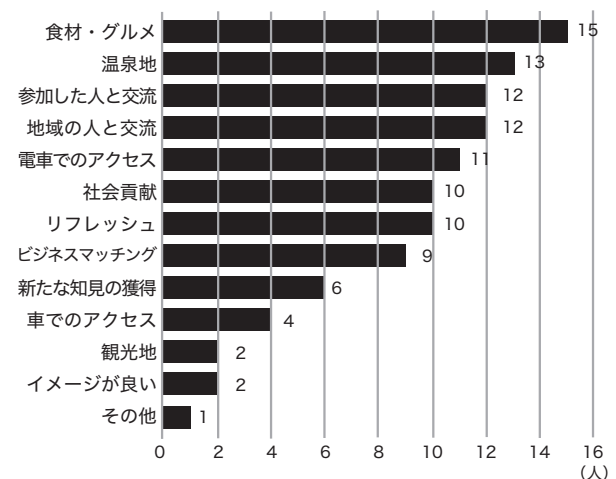
参加者の働き方のスタイルは、21名中9名（42.9%）が「勤務日はほぼ在宅勤務」、5名（23.8%）が「勤務日はほぼオフィス勤務」、4名（19.0%）が「在宅勤務とオフィス勤務の両方（オフィス勤務の割合が多い）」、3名（14.3%）が「在宅勤務とオフィス勤務の両方（在宅勤務の割合が多い）」、参加者が働いている企業の従業

員規模は、21名中9名（42.9%）が「10人以下」、7名（33.3%）が「101人から300人」、3名（14.3%）が「1001人以上」、1名（4.8%）が「11人から50人」、1名（4.8%）が「51人から100人」であった。勤務地は、21名中19名（90.5%）「東京都」、1名（4.8%）が「長野県」、1名（4.8%）が「神奈川県」であった。

2) 今回、提示したツアーおよび、神奈川県西部のどのような点に魅力を感じるか（複数回答可）

集計結果を図3に示す。参加者（21名）が魅力として挙げた上位5項目は、「地元の食材・グルメを堪能できそう」15名（71.4%）、「温泉地である」13名（61.9%）、「参加した人との交流する機会を得られそう」12名（57.1%）、「地域の人との交流する機会を得られそう」12名（57.1%）、「都心から電車でのアクセスが良い」11名（52.4%）であった。

※(%)は、全体（21名）に対する選択者の割合



※その他の回答：「自宅近くの地元であること」

図3 今回、提示したツアー及び神奈川県西部のどのような点に魅力を感じるか

3) ワーケーションを実施したい理由（複数回答可）

集計結果を図4に示す。参加者が理由として挙げた上位5項目は、「働く場所にこだわらなくてすむようになったから」14名（66.7%）、「リフレッシュ効果が得られそうだから」9名（42.9%）、「テレワークができる職場や業務内容だから」9名（42.9%）、「働き方改革（ワークライフバランスを含む）が推進できそうだから」7名（33.3%）、「地域関係者との交流する機会が増えそうだから」7名（33.3%）であった。

※(%)は、全体（21名）に対する選択者の割合

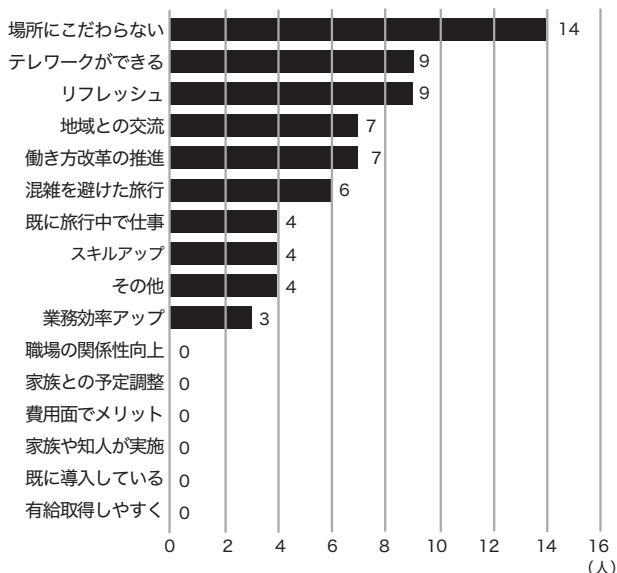
4) ワーケーションに誰と一緒に行きたいか（複数回答可）

集計結果を図5に示す。誰と行きたいかは「1人」が10名（47.6%）で最も多く、次いで「異業種の友人や知り合い」7名（33.3%）、「家族や恋人」6名（28.6%）の順であった。

4. 事後評価の結果

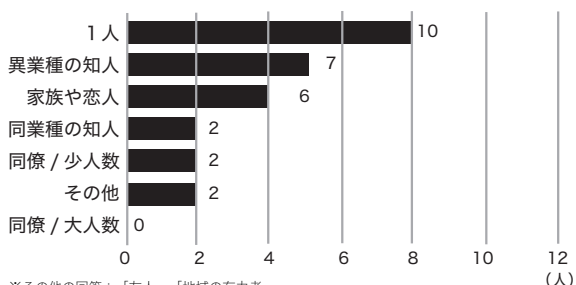
1) ワーケーションを知ったきっかけ

「ワーケーションを知ったきっかけ」に関しては、21



※その他の回答：「普段とは異なるまちに滞在し、新しい環境に触れることで、業務のヒントが得られそうだから」「都会を好まないから」「本格的に中井町に移住が終わる前に地域のことを知り、今後の生活に役立てたい」「基本、放先でも平日は仕事、土日にvacationの要素を入れるstyle」

図4 ワーケーションを実施したい理由（複数回答可）



※その他の回答：「友人」「地域の有力者」

図5 ワーケーションに誰と一緒にいきたいか

名中 11 人 (52.4%) が「その他」、6 名 (28.6%) が「神奈川大井の里体験観光協会からのダイレクトメール」、4 名 (19.0%) が「神奈川県が発信した SNS やメールマガジン」と回答した。「その他」の内容は、「会社の紹介 (4 名)」「神奈川県大井の里観光協会からの紹介 (2 名)」「知人からの紹介 (1 名)」「友人から誘われた (1 名)」「観光協会のホームページ (1 名)」「Facebook 広告：神奈川県大井の里観光協会からの紹介 (1 名)」であった。

2) 今回のワーケーションの価格について

「今回のワーケーションの価格」に関しては、21 人中 15 人 (71.4%) が「ちょうど良かった」、5 人 (23.8%) が「安いと感じた」、1 人 (4.8%) が「高いと感じた」と回答した。高いと回答した者は、モデル事業③の価格 19,500 円に対して 13,000 円程度が適当であると答えた。

3) 今回のワーケーションの日数について

今回のワーケーションの日数に関しては、21 人中 16 人 (76.2%) が「ちょうど良かった」、4 人 (19.0%) が「短い」、1 人 (4.8%) が「長い」と回答した。短いと回答した者は、「3泊4日」(1 名)、「4泊5日」(2 名)、「5泊6日」(1 名) が、長いと回答した者は「1泊2日」が、それぞれ適当であると答えた。

4) 今回のワーケーションの実施時期について

今回のワーケーションの実施時期に関しては、21 人中 13 人 (61.9%) が「ちょうど良かった」、5 人 (23.8%) が「その他」、3 人 (14.3%) が「他の時期が良かった」と回答した。「その他」「他の時期が良かった」と回答した者は、4 月 (2 人)、5 月 (2 人)、9 月 (2 人)、10 月 (2 人)、11 月 (1 人)、「桜祭りの時」(1 人)、「河津桜の時期」1 人、「栗の季節」(1 人) が良いと答えた (※「その他」「他の時期が良かった」と答えた者の中に複数の実施希望時期を記述したものがいたため、2 つの回答選択肢を選択したものと自由記述の実施希望実施時期の数不一致)。

5) 今回のワーケーション全体の満足度

「今回のワーケーション全体の満足度」に関しては、21 人中 17 人 (81.0%) が「とても満足した」、4 名 (19.0%) が「まあまあ満足した」と回答した。「あまり満足しなかった」「満足しなかった」と回答した者は 0 名であった。

6) ワーケーション参加後の神奈川県西部に対する印象の変化

「ワーケーション参加後の神奈川県西部地域に対する印象の変化」に関しては、21 人中 19 人 (90.5%) が「良い方向に変わった」、2 人 (9.5%) が「変わらなかった」と回答した。「悪い方向に変わった」は 0 名であった。印象が良い方向にどのように変化したか (自由記述) については表 3 に示す通りである。

7) ワーケーション参加後のワーケーションに対する印象の変化

「ワーケーション参加後のワーケーションに対する印象の変化」に関しては、20 人中 (欠損値 1 名) 10 名 (50.0%) が「良い方向に変わった」、10 名 (50.0%) が「変わらなかった」と回答した。「悪い方向に変わった」は 0 名であった。印象が良い方向にどのように変化したか (自由記述) については表 4 に示す通りである。

8) ワーケーションに参加して得られたことや感じたこと

「ワーケーションに参加して得られたことや感じたこと」の集計結果を図 6 に示す。得られたことや感じたことの上位 5 項目は、「地域の人と交流する機会を得られた」15 名 (71.4%)、「参加した人 (職場の人) との関係が深まった」15 名 (71.4%)、「リフレッシュ (ストレス解消) できた」14 名 (66.7%)、「機会があれば、今後も神奈川県西部でビジネスを行いたい」13 名 (61.9%)、「神奈川県西部が好きになった」13 名 (61.9%) であった。また、21 名の中の半数以上が「神奈川県西部をプライベート (旅行など) で再度訪れたい」12 名 (57.1%)、「今後も地域の人との交流を続けたい」11 名 (52.4%) と回答した。

9) ワーケーションを実施する上で必要と考えるもの

「ワーケーションを実施する上で必要と考えるもの」の集計結果を図 7 に示す。必要と考えるものの上位 5

表3 良い方向に変わった理由

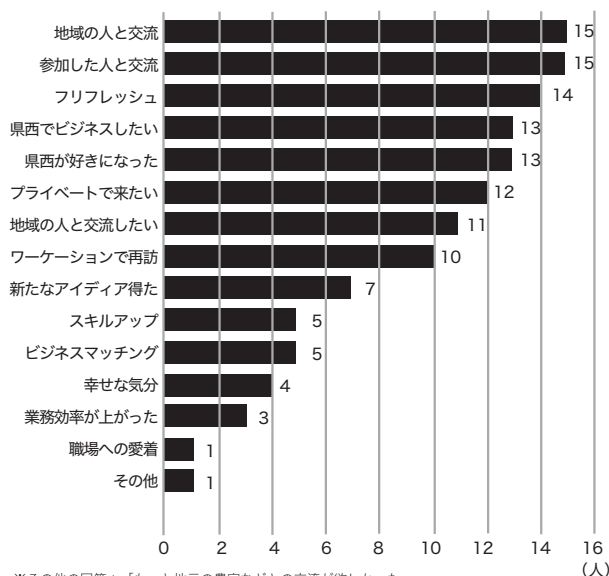
・そもそも（この地域の）情報を知らなかったが、都心に近く自然が溢れる地域だと知った。
・箱根といえば、温泉というイメージが強かったですが、他の魅力も知ることができた。
・何もないと思っていたけど色々ありました。
・今まではほとんどが知らない地域だったが、体験を通して身近に感じられるようになった。課題解決のお手伝いがしたいと思う。
・知識が全くない地域だったので大変な became。
・ほとんど知らない地域だったが、まちや農産業をくわしく知れて、とても良い体験だった。
・片浦エリアをはじめとまわり、何もないさびしいエリアなのかと思っていたのですが、地域資源やロケーションに魅力・ポテンシャルを感じました。
・せっかく場所は良いのに、この先のことを考えた取り組みや動きが感じられないと思っていたが、そんな事なかった。
・ほとんど知らない地域だったが、深く知ることができた。
・何があるのか全く知らない地域でしたが、農産物や地域の人との関わりから良さが伝わった。
・地域で核となる人がいる。景色が最高。
・自然資源が豊か。
・箱根帰りに寄るだけではなく、目的地にもしたいと思いました。
・行政（県・町）がちゃんと取り組んでいることがスバラシイ。
・東名から旧第一生命本社を見て通過するだけだったが、魅力ある水・竹・河津桜の美しい里があると知りました。
・神奈川は都会というイメージでしたが、古き良き日本の原風景をかんじた。
・ちゃんと商業施設、飲食店が十分にある。
・初めて真鶴に来ましたが、最初に街あるきをしてよかったです。町全体を動けて良かった。
・魅力を思う存分に感じて移住したくなる気持ちが分かった。

表4 良い方向に変わった理由

・異業種他社との交流により見識が広まった。
・今までは「ワーク」のために、ついとして「バケーション」をしていたが、こういった体験と仕事を同時に行えることを知って、良かった。
・企業にとってはビジネスチャンスにもなり、また、若手職員の研修的な要素としてもよい機会になりました。
・リラックスできる。
・色々な体験ができ、多くの人にも会えてとても良かった。
・土日のアクティビティを充実させ、平日は仕事に集中するという時間の使い方が効率が良い。
・ここを第二の生活滞在拠点にリモートワークすることが可能。
・レジャー交流、仕事を充実させられた。
・見るものがありすぎて、仕事があまりできませんでした（笑）
・仕事ができる場所がきちんとあることで観光とのメリハリがつけられた。

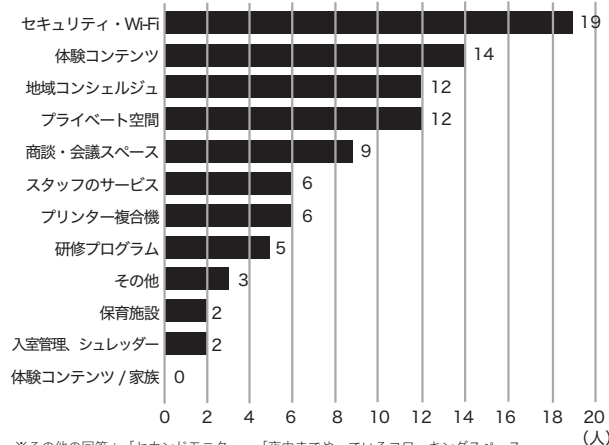
※表3、4は、個人が特定できる情報を削除した上で、出来る限り原文のまま記載

項目は、「セキュリティやスピード面が確保された Wi-Fi 等の通信環境」19名（90.5%）、「地域の魅力を体験できるアクティビティや体験コンテンツ」14名（66.7%）、「地元企業や人との繋がりをサポートする地域のコンシェルジュ的な役割を担う人」12名（57.1%）、「執務に必要な個室などのプライベートな空間」12名（57.1%）、「商談できるスペース、またはチームで仕事や会議がで



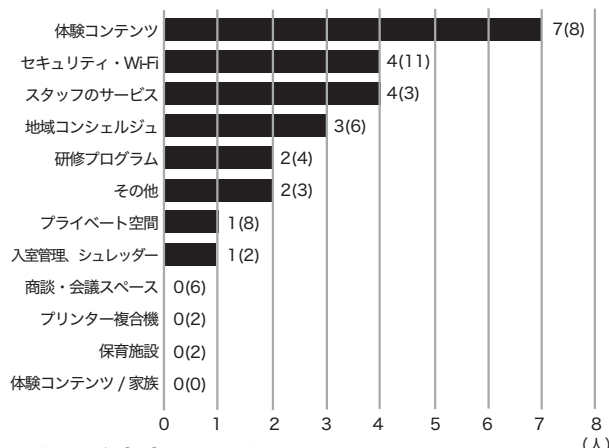
※その他の回答：「もっと地元の農家などとの交流が楽しかった」

図6 ワークショップに参加して得られたこと、感じたこと（複数回答可）



※その他の回答：「セカンドモニター」「夜中までやっているコワーキングスペース」「ペットもつれてこれるとうれしいです」

図7 ワークショップを実施する上で必要と考えるもの（複数回答可）



※対象は、モデル②と③に参加した13名

※（）の数値は「ワークショップを実施する上で必要と考えるもの」の選択者数（モデル②と③に参加した13名）

図8 今回のワークショップで満足できた点（複数回答可）

きるスペース」9名（42.9%）であった。

10 今回のワークショップで満足できた点（複数回答可）

「9）ワークショップを実施する上で必要と考えるもの」の中で「今回のワークショップで満足できた点」を挙げてもらった。その集計結果を図8に示す（※調査対象はモデル事業2と3に参加した13名）。満足できた点

の上位5項目は、「地域の魅力を体験できるアクティビティや体験コンテンツ」7名(53.8%)、「受入地域や施設のスタッフのサービス(笑顔・親切等)」4名(30.8%)、「セキュリティやスピード面が確保されたWi-Fi等の通信環境」4名(30.8%)、「地元の企業や人との繋がりをサポートする地域のコンシェルジュ的な役割を担う人」3名(23.1%)、「自身のスキルアップを目的とした研修プログラム」2名(15.4%)であった。

11) インタビュー調査の結果

グループインタビューから得られた参加者の意見をモデルコース毎に表5～7に示す。インタビューから得られた意見は、個人が特定できる情報を削除した上で、類似した発言をまとめて記載した。

5. まとめ

1) 参加者の働きかたのスタイル

事前調査(質問紙調査)の結果、21人中9名(42.9%)が「勤務日はほぼ在宅勤務」、3名(14.3%)が「在宅勤務とオフィス勤務の両方(在宅勤務の割合が多い)」であり、合計して12名(57.2%)と約6割であった。また、ワーケーションを実施したい理由では「働く場所にこだわらなくてすむようになった(66.7%)」「テレワークができる職場や業務内容だから(42.9%)」の順に回答(複数回答可)した人が多く、既に自由な働き方のできる方が今回のモデル事業に多く参加していたことが推測できる。

2) 今回、提示したツアーおよび、神奈川県西地域の魅力について

事前調査(質問紙調査)の結果、神奈川県西地域の魅力として、多くの参加者が「地元の食材・グルメ」と「温泉地」を挙げていた。また、「電車でのアクセスの良さ」も魅力のひとつであった(車でのアクセスを魅力として挙げた人は少なかった)。一方、今回提示したモデルツアーの魅力としては、他の参加者や地域の人との交流を挙げた人が多かった。

3) ワーケーション参加後の神奈川県西部に対する印象の変化

事後調査(質問紙調査)の結果、ほぼ全ての参加者が、今回のワーケーションに参加して、この地域に対する印象が良い方向に変化したと回答した。「そもそも情報

を知らなかったが、都心に近く自然が溢れる地域だと知った」「片浦エリアを初めてまわり、何もないさびしいエリアなのかと思っていましたが、地域資源やロケーションに魅力・ポテンシャルを感じました」といった意見から、今回のワーケーションへの参加が神奈川県西地域の魅力を知るきっかけになったことが伺える。

4) ワーケーションの満足度とその影響要因

事後調査(質問紙調査)の結果、全ての参加者が今回のワーケーションプログラムに「とても満足した」「まあまあ満足した」と回答した。多くの参加者が、今回のワーケーションに参加して「地域の人と交流する機会を得られた」「参加した人(職場の人)との関係が深まった」と感じていた。また、今回のワーケーションの満足できた点としては、「地域の魅力を体験できるアクティビティや体験コンテンツ」を挙げた人が最も多かった。さらに、グループインタビューの結果からも、「普段やらない農作業をできたこと、収穫体験など非日常的な活動をできたことが良かった」「全プログラムを楽しむことができた。いろいろな体験ができたことが良かった。」「様々な体験プログラムや食事会・懇親会を通じて、他の参加者と十分に交流を楽しむことができた。」などの意見が散見された。このように、プログラムを通じた地元の人や参加者との交流がワーケーションの満足度の高さにつながったことが推察される。

5) 関係人口の創出の可能性

事後調査(質問紙調査)の結果、参加者の6割以上が「神奈川県西部を好きになった」と回答した。また、半数以上の人々が、「今後も神奈川県西部でビジネスを行いたい」「神奈川県西部をプライベートで再度訪れたい」「今後も地域の人との交流を続けたい」と回答しており、多くの人が今後も今回ワーケーションを実施した地域とつながりを持ちたいと感じていることが伺える。

また、グループインタビューの結果から、「地域の資源は十分にある。熱意のある人もたくさんいる。」「地域の人に魅力を感じた」「違う季節に再訪して、四季折々の姿を楽しみたい。」「Uターン者や移住者が多く、盛り上がっている街のように感じる。」など、この地域の人や自然を含めた地域資源に魅力を感じ、今後もこの地域を再訪したい、この地域の人たちとつながりを持ちたいと感じていることも伺える。

表5 モデル1に対する感想や意見

モデル事業に関する感想	良かった・満足した点	不満を感じた・改善してほしい点
	<ul style="list-style-type: none"> ・同僚と交流できる時間を十分にとることができ、親睦を深めることができた。 ・交流会でツアーに参加している他の会社の人と仲良くなった。 ・宿泊施設が素晴らしく、食事も美味しかった。 ・地域に入って様々なことを体験できた、そして地域の人との交流の機会を持てた。 ・普段やらない農作業をできたこと、収穫体験など非日常的な活動をできたことが良かった。 ・徒歩で現地を散策できた。 ・地域を見ながら、この地域で何ができるのかを考えている時間が楽しかった。 ・地域の課題解決の提案に対して地域の人にフィードバックを頂けた。 ・お酒を飲みながら、仕事の話をざっくばらんにじっくりとできた。 ・気候が温暖で良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の人との懇親会(お酒を飲みながら)などの交流があればより深い話ができたとと思う。 ・自由時間が少なく、地元の散策、観光が出来なかった。 ・プレゼンを行う意図が良く理解できなかった。 ・十分な説明が欲しかった。

表5 モデル1に対する感想や意見

<p>可能性について</p> <p>ビジネス展開の</p>	<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスチャンスがあると感じた。地域を動かしていくの存在は大きな強みである。 ・地域の資源は十分にある。熱意のある人もたくさんいる。 ・ビジネスチャンスがある。WEB 広告や DX を使った仕事の効率化など仕事を広げる可能性がある。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今のままで他の地方が行っているような取り組みと一緒にあり、地域の特色が出ない。地域の飲み会に参加できる、地元の人と交流できるような仕掛けがあると良い。仕掛けが無いと、場所は変わったけれどもやっていることは他と同じになってしまう。 ・地域の人と話す機会が少なかった。いろいろな人の話を聞けると良かった。 ・実際に農業をされている方の話（地域の課題など）を聞きたかった。地域の有力者だけでなく、いろいろな人の話を聞ければよかった。
<p>家族の同伴について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事と家族は分けて考えたい。 ・仕事は仕事、旅行は旅行で分けたいという気持ちはある ・仕事の時に家族がいるのはプラスならないと思う。自分が仕事をしている時に、家族が別に楽しめるイベントや要素があると良い。 ・仕事が終わって、地域を観光したいと思っても、資料館などの施設が閉まっていることが多い。つまり、仕事が終わって観光できない。施設の開館時間を延長するなどの工夫が必要。 ・短期（2泊3日程度）のワーケーションだと家族同伴となりにくい。短期の間、企業研修のようなワーケーションの方が受け入れられやすいと思う。 	

表6 モデル2に対する感想や意見

<p>参加者や地元の人との交流について</p>	<p>良かった・満足した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験プログラムや食事会・懇親会を通じて、他の参加者と十分に交流を楽しむことができた。はじめにアイスブレイクのプログラムを実施したことで、その後のコミュニケーションが円滑になった。 ・異業種の方と楽しく交流することができ、非常に有意義であった。 ・コロナで人との交流が減っていたが、今回人と交流の機会が得られて良かった。 ・いろいろな人と話をするのは大事であるということを再認識させられた。様々な仕事を持つ人と接することで多く刺激を受けた。 ・体験プログラムだけではなく、懇親会でも地元の人とゆっくりと話をすることができた。 ・視察に来ていた地元の議員とも話ができ良かった。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由な時間が少なく、他の参加者と個人的な交流ができなかった。 ・もう少し農家の人の話を聞ける時間があればよかった。 ・多くの地元の人と話しがたかった。
<p>SDGsの取り組みへの理解について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動してきた先人の思いを次世代につないでいこうという思いが伝わった。 ・よく理解できた。自分が他の地域で事業を行う際の参考になった。 ・今回参加して、自分の会社のポリシーとして、しっかりと SDGs の意識を出したいと思った。会社のポリシーを考え直すきっかけとなった。 ・大井町には、(SDGs を学ぶのに) 良いお師匠がたくさんいる。この町で、交通弱者（例えば、高齢者）がよりよく暮らしていけるようなアイデアを考えたい。 ・今回参加することによって、地域が抱える問題や解決すべき課題が見えてきた。このようなモデル事業が他の地域にも波及していけばよい。 ・SDGs とお金が回るビジネスの仕組みをどうするべきかを考えるきっかけになった。 	
<p>自分自身を見つめ直す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の人と話をすることが、自分自身を考えるきっかけになった。自分が周りの人に何ができるかを考えた。 ・座禅を行うことで自分を見つめ直すことができた。自分の残りの人生をどう過ごすかを考えた。 ・グループワークで自分の役割を考えることが、自分を見つめ直すきっかけとなった。 ・体験プログラムは自分を見つめ直すきっかけとなった。生きるためのスキルを勉強したい。 	
<p>再訪の意識</p>	<p>再訪したい理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライベートで再訪したい。違う季節に再訪して、四季折々の姿を楽しみたい。 ・地域の人に魅力を感じた。是非再訪したい。 ・来週、家族とこの地域に旅行する予定を入れている。大井町と南足柄市に立ち寄りたい。 ・箱根だけではなく、大井町・南足柄市にもプライベートで立ち寄りたい。 ・普段個別に仕事をしているので、このような機会は社員の交流を深めることにつながる。また、会社のみならずこのようなワーケーションプログラムに参加してみたい。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力があると思ったが、少し遠いと思った。小田原あたりまでは良いかもしれない。 ・車の運転をしないので、個人で訪れた場合、移動手段・交通手段が不安である。

表7 モデル3に対する感想や意見

<p>モデル事業への感想</p>	<p>良かった・満足した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレワークの環境が良かった。4か所のワークスペース（施設）が自由に使用できる点良かった。カフェ風のワークスペースなどおしゃれなスペースもあった。 ・ポケット WiFi の貸出が良かった。街中では WiFi がつながりにくい部分もあった。 ・電動自転車の貸出が良かった。 ・他の業種の方と交流ができた。参加募集する際に、同業種の縛り（今回はこのような業種の方を募集しますなど）を設定すると同業の人と知り合えて仕事に役立つと思う。 ・地元の方、宿の方、移住してきた方、Uターンした方と交流ができた。 ・決められたイベントが少なく、自由にスケジュールを決めることができたのが良かった。 ・地元の美味しいものを食べることができた。特に、お魚が美味しかった。 ・湯河原に行って温泉に入って、リラックスできた。 ・街の景色も素晴らしく、観光する場所がある。2泊3日では時間が足りなかった。 ・説明を聞きながらの街歩きが良かった。いろいろな方と交流でき、真鶴のいろいろな面を見ることができた。 ・町全体が大きな商店街というイメージを持った。地域の人とお店の人が仲良しという印象を受けた。地域の人がフレンドリーであった。 	<p>不満を感じた・改善してほしい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介されたお店（行きたいお店）が、定休日だったり営業時間外だったりした。営業日や営業時間をアナウンスしてくれると良かった。 ・プログラム自体は良かった。オンライン交流会で教えてもらったおすすめのお店などをまとめて配布していただくとありがたい。 ・雨天の日などを考えると、自転車以外の移動手段をどうすればよいか不安を感じた。 ・街にどのような交通手段があるかわからなかった。再訪を促すならば、街にどのような交通手段があるかを参加者が把握できるようにすると良いと思う。 ・ワーキングスペースに個室が一つしかない。また、その個室もオンライン会議などの音（声）が外に漏れる。会社の会議等に参加する際のセキュリティが心配であった。 ・朝が弱いので朝活だけではなく、昼間のアクティビティもあると良い。 ・セカンドモニターなど効率的に仕事ができる環境が準備されると良い。
<p>再訪の意識</p>	<p>再訪したい理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーション、旅行の両方で再訪したい。気持ちよく過ごせ、仕事もはかどった。地域の人と交流でき、ご飯も美味しかった。 ・レジャーで再訪したい。平日にやっていない施設や行きたかったレストランに行きたい。 ・Uターン者や移住者が多く、盛り上がりしている街のように感じる。行きたくていけない店を訪れたい。今回の（モデル事業への）参加は真鶴という街を知り、また訪れたいときっかけになった。 ・バケーションで再訪したい。デザイナーが多い、モノづくりの街という印象を受けた。行けなかったお店などをじっくりと訪ねてみたい。 ・海が最高。海で遊びたい。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よし、また行こうという気持ちにはならないが、ちょっと立ち寄るぐらいならまた訪れてみたい。宿泊しようとはまでは思わない。ここでなければという決め手がなかった。 ・絶対に来たいという気持ちまでにはならない。「真鶴でなぎや」というものが見つけられなかった。